



2013-14 年度 R I のテーマ「ロータリーを 実践し みんなに豊かな人生を」
R I 会長 ロン D. バートン (Engage Rotary, Change Lives)
八戸南ロータリークラブ会報



●ガバナー 北山 輝夫 ● 会長 小原 隆平 ● 幹事 清川 浩幸 ● 会報委員長 三浦 晃
ホームページ : <http://www.hi-net.ne.jp/~hsrclub/> Email : hsrclub-2830@cd.hi-net.ne.jp
RI 第 2830 地区ホームページ : <http://www.rotary-aomori.org>

第 1851 回例会記録 <<ガバナー公式訪問例会>>
2013 年 9 月 19 日 (木) 点鐘 12 : 30

レポート No. 1290

第 1851 回例会要旨

- ・ 会長要件 <<小原会長>>
- ・ 幹事報告 <<清川幹事>>
- ・ 各委員会報告
<<出席・親睦・R 財団>>
- ・ ガバナー講話
<<北山輝夫ガバナー>>



米内 SAA

<<ゲスト>>

R I 第 2830 地区ガバナー 北山 輝夫 様
R I 第 2830 地区南分区ガバナー補佐 中村 勉 様

<<ビジター>>

荒谷 徳安様 (八戸東 R C)

<<会長要件>>小原会長



本日はガバナー公式訪問と言う事で、10 時から会長・幹事面談、11 時からクラブ協議会が開催されました。出席された方々お疲れさまでございました。本日は、北山ガバナーよりご講話を賜りたいと存じます。どうぞよろしくお願い致します。

<<幹事報告>>清川幹事

来週 9 月 26 日は職場訪問例会です。12 時より「浜膳」さんに昼食の用意をしておりますので、12 時 40 分迄に終えて移動して下さい。



<<ニコニコ・ボックス>>
平光親睦委員長



北山ガバナー・中村ガバナー補佐より頂きました。ありがとうございます。



<<出席報告>>工藤副委員長
正会員数 44 名。本日の出席は免除会員 6 名を含む 35 名。出席率 86% です。前々回の例会はメーキャップ 1 名出席率 63% でした。

小原会長：北山ガバナー・中村ガバナー補佐ようこそお越しいただきました。本日はよろしくお願ひ致します。

清川会員・黒田会員・熊谷会員・榊会員・伊藤会員・鈴木会員・山子会員・橋本会員・工藤会員・小笠原会員・岡山会員・平光会員

吉田会員：北山ガバナー・中村ガバナー補佐本日はよろしくお願ひ致します。来週の職場訪問例会皆様よろしくお願ひ致します。

法官会員：本人誕生日 ありがとうございます。

荒木田さん：長い間本当にお世話になりました。ありがとうございます。今日で八戸南ロータリークラブ例会出席も最後となりました。心からお礼申し上げます。ありがとうございます。

<<ロータリー財団>>伊藤委員長
本日は長嶺会員・鈴木会員より 1000 ドルの寄付を頂きました。ありがとうございます。

山子会員・三浦会員・小笠原会員より 100 ドルずつ頂戴いたしました。皆様ありがとうございます。



<<ガバナー講話>>北山輝夫ガバナー



ガバナー公式訪問例会でお話ししなければいけない項目を実は 5 つ用意して参っております。

クラブ協議会では様々なご質問等頂いて、充分にお答えできたかどうか分かりませんが、今の RI の流れは、貴クラブには黒田

先生はじめ、お詳しい方々がおいでですので、私の方からとやかく言う必要はございませんが、今感じていることは、「変化している」ということです。私は、過去に 2 回国際大会に参加しております。真面目に

大会に参加したのは今年のリスポンが初めてです。翻って、地区に話を戻しますと、地区大会の在り方等気になって帰ってまいりました。

来月にはビックイベントである地区大会が開催されます。今プログラムが最終段階に入っておりまして、当日お渡しできるかどうかギリギリの状態です。詰めております。

去年の地区大会に参加された方はお分かりになるかと思いますが、日曜日の昼はいつもご苦労なさっているわけです。去年の日曜の昼は、会員の姿はほとんどありませんでした。最後の閉会の点鐘をする時、会場側はほとんど人がいない。「来年は八戸です。どうぞいらして下さい。」と申上げる為、舞台の袖に集まったわけですが、そうすると、会場に人がいなくなって仕舞ったんです。凄く考えさせられております。

世界大会は、今年は物凄く遠いリスポンでした。私たち夫婦も生涯二度とないと言う事で参加致しました。本当に遠い処にも拘らず、参加者が非常に多かった。その為、開会式が二回に分けて行われた程でした。常にそうなのかと尋ねましたら、特別との事。アトラクションには、皆様もご存じと思いますが、かの「イル・ディーヴォ」男性4人の世界的人気ヴォーカルグループが開会式に出るといふ華々しい式でした。閉会式は参加しないで帰ってきたので、その様子は分かりませんが、閉会式に参加した方々が、どんな目にあつたか紹介したいと思います。

同期のガバナーでは一番お年を召した、茨城の長谷川ガバナーがリスポンから帰れなくなりました。直前ガバナーの松本康子さん、その前の小山内さんも含め約20人くらいが帰ってこられなくなってしまったそうです。長谷川さんの体調を気遣って、黒田先生は残られたと聞きました。リスポン空港の管制官のストにあつてしまい4日間帰れなくなって、ヨーロッパを流浪したというとても面白いお話を聞きました。因みに、松本直前ガバナーによりまして「とても楽しかったわよ。」ということでした。世界大会に行くとなかなかない体験ができるわけです。来年のシドニーには八戸南ロータリークラブの皆様も是非ご参加頂ければ大変ありがたいと思います。

過去に青少年交換でオーストラリアから来た人達が今オーストラリアの国内でいろいろお仕事を頑張っておられます。当地区では三戸ロータリークラブさんが一番受けている数が多いので、今でも4人くらいの方々と連絡を取り合っているようです。お医者さんであるとか、学校の先生であるとか、色々活躍なさっておられます。是非行って旧交を温めようという話を頂いています。南分区のツアーは限定30人位しか取れないので、地元の三八五観光さんをお願いして分区で申し込みを受けようと準備をしております。もうひとつ、板柳ロータリークラブに青少年交換でいらしていたグレックさんが、今彼の地の財団委員長をやっておられます。「彼に絶対会いに行く。」という事が年度事業計画に書いてあり、行く時期が2月と書いてあったので、6月の世界大会に合わせて行っていただくよう変更して頂いております。ご夫婦で何組か行って下さるといふ事なので、向こうでお会いすることを今から楽しみにしております。

八戸南ロータリークラブの皆様も沢山行って頂くようお願い申し上げます。6月は向こうは冬、

でも八戸のように寒いということはないようです。

それでは、このクラブでお話するのは釈迦に説法かもしれませんが、規定審議会のお話を少しさせて頂きます。何故、私の計画書の中に「1200人」が残っているか？という問題についてだけ申し上げます。

シカゴで3年毎に手続き要覧に載っている事の内容を見直す会議が開かれます。そこで、今年度、歴史上初めて13-109という議案を提出して、これが2540地区、秋田県と共同提案になっていますが、1200を1100にする案です。その採決が行われる直前に、国際ロータリーの理事会が、この議案に対する反対声明を提出しました。極めて強硬な反対声明を出したにも拘らず、鐘ヶ江パストガバナーのご努力もあって、288対229の差で可決頂いて今は1100になっています。現在当地区の会員は1137名と少し増えています。

何故1200を掲げたかといいますと、RIの理事会が2016年に、「1100を1200に」という案を出すことは確実だといわれております。

その時に1200に届いていれば、RI理事会から言われなくても済むのです。このことだけを念頭に目標に掲げたものです。1200に届かなかつたら直ぐに合併しなければならないのか？というご質問を受けるのですが、そういうことは全く考えておりません。故に秋田県と一緒になるとかならないとか、そういうことも全く考えておりません。唯2000人以上いた地区が、1000人を割り込む程に減った地区を、1200人まで戻すのを目標にしても良いのではないかと考えたわけです。



次の工藤ガバナーエレクトには、この「1200」を外さないでくれと、お願いをしております。

今皆様のご努力で1137まで来ております。残すところは後63。一年に41ずつ増えていきますと(1クラブ一人)3年間で123の会員増員ができるわけです。是非それを念頭に於いて会員増強にお努め頂ければありがたいと思います。

御礼を二つ申し上げます。

去る1月6日に壮行会を開いて頂きました。先般の新会員セミナーに於いて、壮行会のお話をしたところ、「どうして壮行会というのですか？」という質問が出ました。先程お話に出ました、茨城の長谷川さん84歳、同期最高齢。昨年九月の頭に、ガバナーエレクトトレーニングセミナーというのがありましたが、「俺は命がけだぜ！」と、おっしゃいました。ガバナーになるということは、人によっては命懸け

になるから、壮行会っていうのかなあとお答えをいたしました。青森県内全部の会長・幹事さんに集まって頂きまして、その後お餞別までいただき、1月13日のサンディエゴでの協議会（これに出席しなければガバナーになれない）に参加致しました。この時に既に事件が起きておりました。貴クラブからは、長嶺さんが財団委員長として参加なさいました。

世界中の財団委員長が集められたわけですが、ちょうどサンディエゴへの直通便は皆様ご存じのボーイング787。超軽量のこの飛行機、サンディエゴについた翌日に飛行禁止になって、帰れなくなってしまい、当然長嶺さんも帰れなくなり、ロサンゼルスからサンフランシスコからしか帰ることができなかった、という思い出に残る会議となりました。国際協議会はたった半日オープンな日がございます、奥様方チームが買い物に出かけ、何をしようか考えておりましたら、大事な仕事を思い出しました。各クラブにお葉書を出す、というお仕事です。半日がかりでやりました。



テーマが発表になってからでないでシールを渡してくれませんが、書いた葉書にシールを貼って出すのも結構大変なことでした。誰からも、何も教えてもらわず出かけて行ったわけですが、次はガバナーエレクトの工藤さんに、色々お教えしなくてはならないと思いました。

その時、シドニー世界大会のブースがありまして、「何人来るんだ？」と、聞かれました。つい100人と書いてきまして、地区幹事長には相当怒られましたが一応目標ですから100人でいいのではないかと思います。地区大会が終わりましたら積極的に皆様に広報したいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

またもう一つの御礼でございます。先ほども財団に沢山ご寄付頂きありがとうございます。あと2、3回来れば目標を達成できるのでは等と、つい考えてしまいました。

当地区の財団の個人平均、約130ドル弱でございます。日本国中34ある地区の中で、丁度真ん中あたりの位置にあります。私としては地道にというか、寄付を忘れないでね！と、お願いするばかりです。このクラブは関係ないかもしれませんが、寄付をしたことのないロータリアンを0にする、というのが私の考えとしてございます。データは調べることが可能なので、特定した相手には何とかお願いしたいと思っております。1000円でも2000円でも全然か

まわらないと思います、今日は100ドル1000ドルの寄付がございましたが、額はまったく気にしておりません。そういう活動をしたと思っております。米山に関しましても、34地区あるうちの29番目。だいたい上の方になってきましたので、各クラブにお礼を申し上げて下さいと、米山工藤委員長から仰せつかってまいりました。重ねて御礼を申し上げたいと思います。

ほとんどのクラブで「月信読んでますか？」と聞いかけますと、読んでいらっしゃる方がいないんです。月信には12回お話しを書かなくてはいけないんですが、前回には確か「アリとキリギリス」というのを書きました。蟻んこさんは熱中症で死んじゃって、キリギリスは生活保護もらって天寿を全うする…という、新しい考えでもって、皆様にもご一考願いたい、との思いで書いています。「こうだ！」と考えを決めつけるのではなく、「何でも在り」かもしれないなど。その中に南ロータリークラブとしてのDNAを残してくれるようになって頂ければありがたいなと思っております。

僕が税理士になったのが34年前、当時の業界のカリスマといわれた方が当時もうお話になっていらっしゃいました。「あなたたちは茹でガエルにはなるなよ！」と。

「カエル」というのは、36度位で死ぬんですが、36度のお湯に蛙を入れると、死にたくないのでピョンと逃げるけれど、15度位のちょうど良い、気持ちの良い温度から徐々に上げていきますと、何の苦しみも無く蛙は死んでしまうんです。これが「前年通り」と言う事だと僕は理解をしています。チョット口幅ったいことになろうかと思いますが、若い人たちが何かやろうとすることに関しましては、ご意見があったとしても、先輩方には寛容の心を持って見つめて頂きたいと思っております。

貴クラブには三陸復興、本当に頑張って頂きました。燕島のトイレは象徴になったのではないかと思います。ロータリーに関して、皆様に知って頂くことが伝わったのではないかと思います。

今回の地区大会パンフレットの最後の所を、是非種差方面を中心にやろう、と昨日も話しておりました。

震災は大変なことではありましたが、でも、それに取り組む時の皆様のエネルギーに、とても感心いたしました。貴クラブそのものの歴史と底力はもう皆様説明のしようもないくらいわかっていらっしゃると思います。新しい時代、あと30年と考えますと、僕もいないわけですが、その30年を是非若い人たちに繋げていって欲しい、それがもう責務だと。

ロン・バートンが、「私達が次の世代の人たちを育てるということが私達の責務なんだ」こう言っていますが、育てるといふところか、とにかく仲間引き入れておかないと、クラブそのものの存続にもかかわるという状況になってくると思うんです。先程、橋本先輩にも申し上げましたが、相応しい人をクラブに入れるのでは無く、相応しくなりそうな人を入れて欲しい。可能性の所まで、枠を広げてほしい。会員が増える、というより仲間を増やす努力をして欲しい。うちのクラブは、僕より先輩は一人しかいません。33年間のうちに全員いなくなりました。亡くなってしまった方がほとんどですが、その方々から受け取ったものを全部伝えなくてはならないので

す。同じくらいの年齢の人に伝えても、ある意味しょうもない部分があって、やはり若い人たちに伝えなくてはなりません。年齢が若い、と言う事はそれだけ可能性があるという事ですので、是非平均年齢を下げる努力をして頂ければありがたいです。

先程クラブ協議会で出席の話が出ました。ロータリークラブに在籍しているのに出席しないのは何故でしょうか？楽しくないとか面白くないとか、そういう話が出ます。これに関して二つ申し上げます。

楽しくしてもらおうと言う事に気付いて貰うまでは、ちょっと手を貸して欲しい。人を楽しませる気にならなければ、自分も楽しめないだろうと思います。

「どうすれば音楽楽しめますか？」と問うた人に、「楽しむにはチョット音楽を勉強すればいいんだよ」と、おっしゃった先輩がいらっしやいました。ロータリーもたぶんそうだと思います。いろんな方の意見を「聞く」と言う事に慣れれば、例会も楽しく出来る。自分で楽しく出来るのかもしれない。哲学者が言った言葉の中に「幸せはそこにあるのだ」、その辺に転がっているのだから、その捕まえ方を勉強すればいいのだ、と言う事だと思いますが、楽しくない方には、楽しくなる方法を一寸勉強してもらうことが必要なのかなとは思いますが、例会を活性化する為には、会長幹事さんのチョットした気配り・セッティング等も必要かもしれません。出席はRIの中では緩やかになっているように感じられていますが、やはり、例会出席がなければ、私の中では、私の考えるクラブではない、と思うのです。実はEクラブが出来た時相当議論されております。その面談する、いわゆる古典的な出席が、インターネットで連絡を取る等通信手段が変わった故に、言われているんだろうとは思いますが、僕はアナログ人間なのかもしれませんが、やはり、ゴルフがあったら出る。飲み会があったら出る。例会があったら出る。と言う事を基本に考えて、出られなかった時はどうしようか、と言う事は皆さんの中でそれぞれ考えて頂ければ良いのかなと思います。クラブによってはインフォーマルミーティングを拡大してそれを理事会が、正式な委員会会合と認めて、出席機会を増やす。例会は45回だけれどインフォーマルを25回開けば、全部で70と、認めるような手当をしている処もあるようです。例会変更で他のクラブに行って名前を書いてカードが貰える、と言う事をやっておられる処もあるようです。それぞれの方法にはそれぞれの意味と長所欠点もあるかと思いますが、やはりそこに向かっていくというお気持ちはとても大事な事だと思いますので、国際ロータリーも出席を軽んじているのではなく、ロータリー活動をして欲しい！と言う事だと思っています。

ロン・バートンが国際協議会の時、若いボランティア活動家達を何人か招いて、スピーチをして貰ったのですが、ロン・バートンが彼らを何と呼んだかといいますと「彼らはロータリアンではないけれど、ロータリーファミリーなんだ」という言い方をしました。広い概念で表現なさるので、ある種誤解されることがあり、その表れとして、RIは出席を軽視しているのではないかとなどという声が聞かれています。決してそのようなことはございません。

先程表彰規定の事も話に出ましたので、私もそのことについてはちょっと考えてみようと思いました。

今日は勉強させられることばかりでした。注文にもちゃんとお応えできるようにしたいと思っております。

《中村ガバナー補佐》



先程クラブ協議会で、さすが八戸南ロータリークラブでなければ出来ないと思うことがありました。「よろず相談」です。原田社会奉仕委員長から説明がありましたが、かなりの年数継続しておやりだということで、「継続」する事、此れも大きな奉仕の形だと思いました。赤穂社会奉仕委員長のお話にありました、長生園の皆様への八戸三社大祭へのご招待。なんと、35年だそうですね。凄いこと、本当に素晴らしいことだと感心致しました。そして最後にもう一つ。八戸南ロータリークラブさんからも、そろそろガバナーを！

ありがとうございました。

八戸南ロータリークラブの四つのテスト

クラブ活性化のために、

1. 例会に出席していますか
2. 互いに声をかけあっていますか
3. 自分の役割を認識し、役割を全うしていますか
4. ロータリーを楽しんでいますか

職業奉仕

1. 心がこもっていますか (hearty)
 2. 地に足がついていますか (steady)
 3. 道理をわきまえていますか (reasonable)
 4. 時代に遅れていませんか (current)
- or 新しいことに挑戦していますか (challenging)

(H)achinohe (S)outh (R)otary (C)lub